

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4270102645		
法人名	医療法人 秋桜会		
事業所名	グループホーム コスモス1及2		
所在地	〒851-2211長崎県京泊3丁目10-5 (電話)095-850-0100		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年1月8日	評価確定日	平成21年2月9日

【情報提供票より】(平成20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年	4月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤	2人, 常勤換算
			4.03人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート		
	4階建ての	2階 ~	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費300円/日・実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	1名		
年齢	平均	84.5歳	最低	76歳	最高
					95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎新港診療所・こんどう整形外科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームコスモス1及2は新興住宅地に建てられており、スーパーやコンビニエンスストア、銀行や郵便局も近くにあり、利便性が高い。また海も山も近くであるため、眺めも良い。当ホームは母体法人の診療所との医療連携による安心が当ホームのメリットであり、医療ニーズの高い方も受け入れられるホームである。敷地内には小振りながらも十分な畑があるので、入居者と一緒に野菜を栽培され、楽しんでいる。事業所の1階部分にはデイサービスがあり、顔見知りの方とふれ合う機会がある。今回の冬は廊下の冷え込みに対して念願の暖房機を設置され、部屋との温度差がないために過ごしやすくなっている。入居者も共同生活を楽しまれており、職員との関係も良好なグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価に対して改善計画シートを作成され、質の向上に取り組まれている。その中で運営に関する家族等の意見の反映に対して家族アンケートを実施され、ご家族の意見に対して真摯に向き合う努力がなされている。プライバシーの確保の徹底においても、法人内で「職員心得」を活用され、また昨年9月、新たに言葉づかいについての考え方をもう一度振り返り、よりいっそう注意されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員に配られ、全職員に自己評価の意義を説明し、その後一人ひとり取り組まれたユニットや、合同で話し合われたユニットがある。その上でホームの代表者が取りまとめ、その内容をもう一度全職員にフィードバックがなされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議ではホームの行事など、さまざまな事を包み隠さず報告され、参加されている方々からも有意義な意見をいただいている。また会議録も見やすい形式で記録されている。しかし現在は3ヶ月に1度、運営推進会議を開かれているのが現状である。討議内容としては事故報告や終末期の意向確認などの話し合いがなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月1度、入居者一人ひとりの近況報告を便りでご家族に出されている。また法人全体で「桜並木」という新聞を定期的に配られ、その中で職員の紹介や様々な情報をお知らせしている。法人全体のホームページも用意されている。無記名アンケートを実施され、ご家族からのご意見に真摯に向き合われている。ご意見として出た事に対してホーム内で話し合わせ、対応されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域とのつき合いは自治会に入れるよう、努力をされている。今回焼き芋大会を行い、近くにお勤めの方々にもお裾分けするなど、交流を図られている。近くのスーパーとも顔なじみになり、地域とのつき合いは良好である。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で「安心とあなたらしい暮らしを真心でお手伝い」と、入居者とも一緒に憶え易い理念を作り上げられている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を名刺サイズにすることで、いつでも確認できるよう持ち歩かれている。また毎月のミーティングで必ず話し合われている。職員の言葉遣いに対しても真心を忘れず、笑顔で日々対応するよう取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とのつき合いは自治会に入れるよう、努力をされている。今回焼き芋大会を行い、近くにお勤めの方々にもお裾分けするなど、交流を図られている。近くのスーパーとも顔なじみになり、地域とのつき合いは良好である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は職員全員に配られ、全職員に自己評価の意義を説明し、その後一人ひとり取組まれたユニットや、合同で話し合われたユニットがある。その上でホームの代表者が取りまとめ、その内容をもう一度全職員にフィードバックがなされている。外部評価に対して改善計画シートを作成され、質の向上に取り組まれている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの行事など、さまざまな事を包み隠さず報告され、参加されている方々からも有意義な意見をいただいている。また会議録も見易い形式で記録されている。しかし現在は3ヶ月に1度、運営推進会議を開かれているのが現状である。		今後は会議メンバーによる事業所の見学や食事会などの行事参加を取り入れるなど会議の内容を工夫することで運営推進会議の回数をおおむね2ヶ月に1回に増やし、グループホームへの理解をさらに深めていただくことに期待したい。

グループホーム コスモス1及2

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の情報や更新の際、分からない事を市町村担当者などに尋ねるなど顔なじみとなるべく、相談されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1度、入居者一人ひとりの近況報告を便りでご家族に出されている。また法人全体で「桜並木」という新聞を定期的に配られ、その中で職員の紹介や様々な情報をお知らせしている。法人全体のホームページも用意されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	無記名アンケートを実施され、家族からの意見に真摯に向き合われている。意見として出た事に対してホーム内で話し合われ、対応されている。その際意見をいただいた家族にお礼とその後の報告がなされている。また家族会発足に向けて準備されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は入居者への配慮のために行われていない。しかし今後は全職員がユニット間での応援態勢を作れるように、年に1回、1名くらいの職員異動を検討されている。また職員の離職しない工夫として出勤体制を検討され、働きやすい環境をつくられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の参加率をアップさせるために同じ研修内容を1ヶ月に3回することで、必ず全員が学べるように工夫されている。外部研修は社会福祉協議会から研修の情報もらい、全職員に参加を勧めている。また実践者研修を全職員に受けてもらうよう、職員の育成に力を注がれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム連絡協議会の地区長を当ホームの次長が担当されており、昨年の10月には第1回の研修会を開くなど、積極的に同業者との交流がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居予定の方の自宅訪問やホームに見学に来ていただくなど、馴染みながら入居していただいている。例えば法人内他施設から移行という形で入居された方は、おやつの時間に訪問していただき共に過ごして馴染んでいただけた。また、デイサービスから移行して入居された方は現在も継続して週3回デイサービスへ通っていただいている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は「職員心得」を基に一方的な介護を行うことなく、入居者から教えられること、例えば靴下を縫うには電球を使うと良いなど、楽しみながら共に生活されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者がどのような暮らしを望まれているのかをアセスメントシートを利用されている。また食事中などで入居者と会話する際に回想法などでさりげなく聞き取られている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者一人ひとりに担当者がおり、日々の記録から見出した具体的なプランを検討されている。ご家族の確認もいただいている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月3名づつ見直しされているので、入居者一人ひとりの介護計画の見直しは3ヶ月に1度である。またモニタリングは毎月されており、現状の介護計画が難しいと判断された場合や状態が変化された場合はその都度見直しをされている。</p>		

グループホーム コスモス1及2

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の1階がデイサービスを行っているため、住み慣れた地域の方々との交流が図りやすい。排泄などもトイレ誘導などでオムツからパットへ移行できる方が増え、オムツ代を抑える支援がなされている。また職員が認知症介護についての講師として学生の前で話し、認知症の誤解を解くことで入居者が暮らしやすいように支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医との関係を大切に、本人が望まれるならば連絡帳を利用し、医師の意見をご家族へ報告されている。また協力医の往診もあり、適切な医療を受けられるように支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホーム独自の看取りの指針は用意されている。入居者の状態に応じて退居先の用意もある。今後は終末期の意向の確認書をつくる予定である。		今後はさらにホームとして看取りの介護が可能な範囲を明確に確認されることが望まれる。また職員の心構えや入居者のご家族の宿泊の準備へ向けた具体的な取り組みにも期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	書類などは事務所に保管し、入居者の目に触れないように工夫されている。言葉掛けは「職員心得」や言葉遣いの資料を作成されたり当ホーム独自でレクレーションを行うなど、徹底されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者は買い物に何時でも行く事ができ、散歩や美容院に髪を染めに行くことがあるなど、その人らしい暮らしができるように支援されている。		

グループホーム コスモス1及2

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外部委託で運ばれてくるが、饅頭などのおやつは当ホーム内の台所で入居者と一緒に作られている。他にも七草粥やお好み焼きなどは入居者も手伝いながら楽しく食事されている。職員も食事の際には入居者と同じ席に着き、食事の支援がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外はほぼ毎日入浴ができる。入居者の希望に応じてシャワー浴ができるなど、一人ひとりが満足できるように支援されている。また夜に入浴したいと入居者から望まれた際には、夜間支援を行ったこともある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑でできた芋を楽しく掘りおこし、焼き芋などをしておいしくいただかれている。また化粧をされる方も居られ、ホームでの暮らしを楽しまれている。また食事の際にご飯を茶碗によそったり配膳などの役割を持つことで張り合いのある暮らしを送られている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の玄関にあるプランターの花に水をあげたり、ゴミ出しをすることで、日常的に外気に触れる事ができる支援が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けることなくスーパーへの買い物など、職員に声を掛けていただければ自由に外出していただけるようにしている。1階の事務職員が入居者の外出に気を配られ、安全に配慮されている。また入居者一人ひとりの顔写真と連絡先を用意され、警察や消防の方々にも協力していただける関係を築かれている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災などの災害を想定され、年に1度消防署の立ち会いのもと、夜間を想定して避難訓練が行われている。避難マニュアルの用意もされているが、自然災害に対する備えは特になされていない。		さらに今後は地震や水害などの災害も想定され、持ち出し品の確認など、様々な災害に対応できるマニュアルを用意されることに期待したい。

グループホーム コスモス1及2

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は基本的に外部から委託して届けてもらっている ので、栄養管理は安心である。食事の摂取量も記録され ており、水分量は入居者個々の状態に応じて1リットル を目安にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、 トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過 ごせるような工夫をしている	冬の廊下の冷え込みに対して念願の暖房機器を設置 され、安心して部屋からリビングまでの移動ができるよ うになった。夏場の強い日差しに関して、職員が努力し て設置した日差しよけの網により、洗濯物を干す屋上ま での移動が楽になるなど、宿泊施設として使われてい た既存の建物を、使いやすいよう工夫、努力している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	2部屋共同のトイレと洗面台があり入り口も共有ではあ るが、靴箱があるなど、非常に家庭的な雰囲気が感じ られる。また居室も仏壇など、その人らしい物が持ち込 まれており、居心地よく暮らせるように配慮されている。		